

まるこばし 丸子橋架替事業

受賞機関 東京都建設局道路建設部
東京都建設局第二建設事務所

はじめに

丸子橋は、都道東京丸子横浜線（中原街道）が多摩川を渡る橋であり、東京都と神奈川県を結ぶ幹線橋梁のひとつである。旧橋は昭和初期に建設された橋で、老朽化と増大する交通需要に対応するため、川崎市と共同で、架け替えを行なうこととした。

事業の概要

新橋は、橋長405.60m、車道幅員17.00m、歩道幅員2×4.00mの橋梁で、2径間鋼ローゼ桁橋と3径間PC箱桁橋とからなり、平成12年6月に供用開始した。事業費は、約142億円である。

事業の特徴

(1) 旧橋イメージの継承

古くからの街道に開かれていた「丸子の渡し」に橋を架けようという地元の働きは、明治時代から幾度となく重ねられ、昭和9年にようやくその熱意が実を結び、3径間の鋼アーチと10径間のRCアーチの丸子橋が完成した。

この橋は、異なった形式と素材がつくるアーチがリズムカルに連続する美しい橋であり、著名橋として長年にわたり地元住民に親しまれながら地域に定着してきた橋である。

新橋の選定にあたっては、「歴史的な原型の保全」をテーマに検討を重ね、旧橋の景観イメージを継承しつつ、現代風にアレンジされたスマートな橋として生まれ変わった。

(2) 工事期間の短縮

下部工のうち、鋼アーチを支える橋脚は、工期短縮を図るため、ニューマチックケーソン基礎を採用した。



新橋全景

上部工のうち、PC箱桁部は、仮橋との近接施工及び工事中の河積阻害を少なくするため、カンチレバー工法を採用した。また、鋼ローゼ桁部は、仮橋との近接作業に加え、流水部での施工であったが、支間長100mを超える鋼桁2連をほぼ同時に架設し、一湯水期内で施工を完了した。

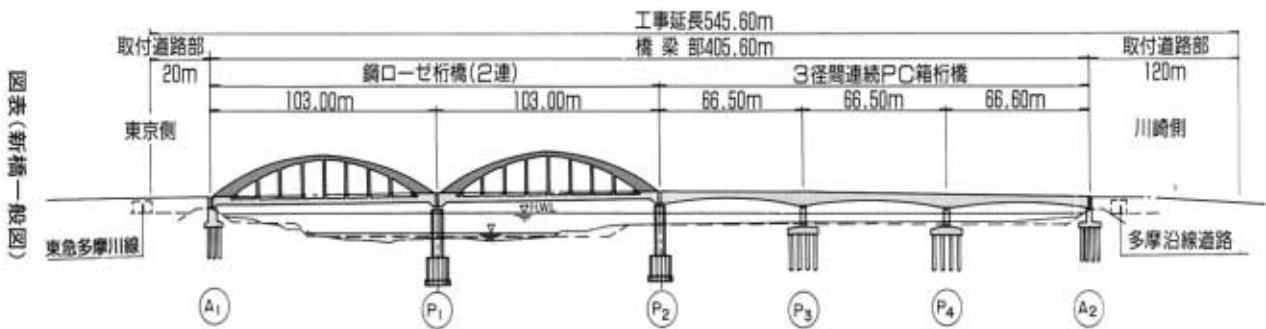
(3) 事業実施による効果

車道は2車線から4車線となり、交通渋滞が緩和されるとともに、大気汚染の低減など周辺の交通環境が改善された。また、歩道は、2.7mの片側歩道から4.0mの両側歩道となり、歩行者や自転車の利用者は、安全で快適に橋を渡ることができるようになり、近隣の人々の散策路として親しまれている。

おわりに

新しい丸子橋は、旧丸子橋と同様、人と物の交流を支えるだけでなく、周辺環境に調和し、地域のシンボル、ランドマークとして、未永く親しまれていくもの考える。

受賞賛助会員 清水建設(株)、住友建設(株)、住友重機械工業(株)、(株)銭高組、東急建設(株)、(株)ピー・エス、(株)宮地鐵工所



新橋一般図